

## 平成28年度 第6回安曇野市図書館協議会 会議概要

1	審議会名	平成28年度 第6回安曇野市図書館協議会
2	日 時	平成29年3月22日 午後1時30分から午後3時まで
3	会 場	安曇野市穂高交流学习センター 多目的交流ホール
4	出 席 者	三澤会長、田村副会長、加藤委員、錢坂委員、山田委員、川名委員、福澤委員、樋口委員
5	市側出席者	高嶋図書館交流課長兼中央図書館長、青柳豊科図書館長、山越三郷図書館長、百瀬堀金図書館長、小笠原明科図書館長、細田課長補佐、奈良澤副主幹、沖副主幹
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1 人 記者 1 人
8	会議概要作成年月日	平成29年3月31日

### ○会議の概要

- 1 開会 (高嶋課長)
- 2 あいさつ (三澤会長)
- 3 協議・説明
  - (1) 平成29年度安曇野市図書館事業計画(案)について(資料1)
  - (2) 第2次安曇野市図書館基本計画に伴う市民アンケート結果について(資料2)
  - (3) その他
- 4 その他
  - (1) 三郷交流学习センター建設事業の進捗状況について(資料3)

### 3 協議・説明概要

- (1) 平成29年度安曇野市図書館事業計画(案)について

各図書館長より説明

委員・堀金図書館の講座・講演会等の開館時間はいつごろでしょうか。

堀金図書館長・リニューアル1周年記念のお話会は10時半から、おりがみは1時半から3時。クラフト講座は、午後1時半ごろから午後3時半の予定です。また、上映会は1時半から3時半ごろの予定です。あと短編小説は、1時半から3時半ごろを予定しています。

委員・高齢者の方が多くなり、高齢者の方に関してやはり力を入れていく必要があるのではないか。また、公民館活動もそうですが、学社連携、融合ということから、教育委員会全体の連携が大事だと思います。

委員・質問です。学校図書館との連携はどのくらいあるのか。

事務局・事業計画に「市内幼保小中高との連携」とあります。また、学校司書先生から図書のリクエストいただければ、学校に直接配本したり、先生が図書館に取りに来られたりする場合があります。

議長・それでは、平成29年度の図書館事業計画についてはこのように進めていただくということで、よろしいで

すか。

(2) 第2次安曇野市図書館基本計画策定に伴う市民アンケート結果について

事務局から説明

委員・アンケート内容と蔵書の動きがどのような連携を持っているのか、そういったことも含めて検討をしてほしい。

委員・改めてこのアンケートから基本理念・基本方針が育ってきているなと思いました。このアンケートを見たときに、基本計画に「サービスの充実」と書いてあるが、サービスの中身が中々出てこない。どこでも通用するサービスなのか、図書館ということで、もうちょっと見えてくるサービスというところが基本計画の重点事業の(1)、(2)のところに出てくればいいなと思います。もし検討できるならば、そのところをお願いしたい。

委員・これからどのようにアンケートに対して市としてどう行動していくのかを知りたいです。

委員・基本計画重点事業(2)で「すべて」というものが何を示しているのか。あれもこれもではなくて、重点的に「このことだけはみんなで取り組もう」という、何かそういうものが欲しいのではないかということを感じています。何をどのようにするかというのはもう少し具体的にしたほうが評価するには楽し、取り組むのも楽ではないかと感じました。みんなが評価しやすい、取り組みやすい文言や理念、方針等を打ち出していければと思いました。

委員・待遇に関しては「すごく満足している」というところがとても大事なような気がして、今後は民間委託にするとかしないとかという話になったときにも「職員の待遇がいい」ということは残してほしいと思います。

事務局・委員さんが最後のページのことを先ほど言われました。基本理念とか基本方針についてですが、これは説明不足かもしれませんが、平成21年9月に策定した現在の図書館基本計画の見出しでございます。この先「どのような第2次図書館基本計画をつくっていくか」ということになります。その辺につきましては、委員さんがお話しされたように様々なご意見がございました。相反する意見もたくさんあります。それを現在の市の財源、資源、人的資源、財政的資源、その中でどうやっていくかということを考慮しながら、皆さんからご意見を聞きながら定めるということになります。

議長・10年したらまた基本計画を見直していくのか。

事務局・向こう10年、平成39年までの計画にし、34年度あたりに1回見直したいと思っています。

議長・市民のどれくらいの人が図書館に行ったことがあるのか、というのはどこかで分かりますか。

事務局・利用者の方が1冊以上借りたというデータは取れると思います。昨年1年間、1冊以上本を借りた市民の

利用者が何人いたかというデータも取れると思います。

議長・「どのくらいの方が利用されているのか」というのを知りたい。たくさん本を借りる人もいるだろうし、数冊という人もいる。どれくらいの方が図書館を認知し、本が借りられているか興味があります。

委員・図書館や公民館、支所も、いかに足を運んでもらい「いい施設があるから活用する」という、まずその辺から考えることが大事だと思います。

委員・本に興味がある方はどんな状況でも図書館へ行くが、結局行かない人は図書館で本を借りなくても、インターネットで色々できる。図書館というところで色々なものと出会いがあり「図書館ってこんな場所なんだ」と、まず思うきっかけというのが一番大事だと思います。三郷の新しい図書館は、公共施設が隣接していて、施設に訪れた人が図書館に流れるとか、とても期待しています。何か図書館以外のことで、もっと本当に足が向くようなことを考えられたらいいなと思います。

議長・三郷は、全てのものが1カ所にまとまり、あそこへ行けば全てあるという感じがあり、非常に条件的にいいと思います。

委員・図書館には新しい発見がある、個人、人それぞれ、そういう動機づけが大切なのではないかと、そのようなことを基本にして、あまり行かない人に目を見開いてもらう、もしくは来てもらう、そういうことがいいのではないかと考えます。そのためには友達を誘うとか、仲間を増やしていくとか、そういうやり方ができたらいいなと思います。

委員・昨年度、視察し、課題解決型の図書館を見て、とてもいい図書館だという流れがあったような気がします。アンケートの中で、図書館利用の目的が、趣味・娯楽・知識、また、図書館へ来るとホっとするというような考えであれば、課題解決ということにあまり力を入れ過ぎないほうがいいのかなと思います。課題解決をあまり強く出してしまうと、このアンケート結果内容と大きな差になってしまうような感想を持ちました。

委員・「どういう方向に安曇野市の5つの図書館はいくのかな」という意識があります。3分の2は図書館へ行ったことがなかったというのが現状かと思いました。例えば塩尻図書館というのは課題解決型です。課題がなくて、ぶらりと行った人が、こういうビデオをずっと見ていたら「あ、これを借りたい」というようなことができにくくなります。課題を持っていかないと、いっても「あまり意味がない」ということになってきますから、今の安曇野市図書館と市民との関係をみると、現在の基本路線で当面いいのではないかという気が強くいたします。

議長・ほかにありますか。

委員・読書通帳の使われている頻度を教えていただければと思います。

事務局・春の読書月間が平成29年度の事業が一番最初にありますが、この月間中に読書通帳のキャンペーンということでお配りをしています。また、中央図書館では、小中学校の方たちを主に、マスキングテープを使っ

て楽しく読書通帳を装飾して使ってもらおうという企画をしています。春の読書月間を含めて推進するよう  
にしています。今までも多く活用されていて、リピーターの人が多いです。

委員・きぼうへ行ったときにカウンターに置いてあり、マスキングテープが一つ一つ全部違う色が張られていて、  
すごいかわいく、きっとみんな喜んで持っていくのだろうなと思いました。

事務局・読書通帳の数ですが、昨年5月に報告した27年度の数字になりますが、27年5月1日から始めまして、  
976人配布し、内98人の方が100冊到達しました。今年度は、年度末に集計をとるという形になりますので、  
ご了解ください。

委員・アンケート結果で「子どもがうるさいのを注意してほしい」「それを注意しない親を注意してほしい」「新  
聞をめくる音がうるさくて、新聞を見る部屋と本は別にしてほしい」など、図書館としては、どう思ってい  
るかお聞きしたいです。

事務局・特に他市町村の図書館利用されている方から「うるさいのではないか」というご意見をいただくことがあ  
ります。でも、中央図書館として、子どもからゼロ歳児、ご年配の方までご利用いただきたいということで、  
特にサイレント（音）ということについて、すごく厳しくしていないのが現状です。ただ、こちらで判断さ  
せていただいて「ここまでは、本を選ぶ会話としては大丈夫」「お子さんと本を楽しむ会話としては大丈  
夫」という範囲で判断し、お子さんと会話をしていても注意しない対応もしております。利用者の皆さんが  
気持ちよく利用できる妥協点を見つけながら対応をしております。新聞についても、場所を決めてこちら辺  
りの範囲で見てほしいと声をかけています。よろしく願いいたします。

委員・話が非常に大事なポイントになってきているような気がします。市内にパン屋があり、そこには、2メート  
ル角くらいの子どものコーナーがあります。子どもたちを遊ばせ、お母さん方は別の場所でパンを食べたりコ  
ーヒーを飲んだり、私は待ち合わせの時間があってそこで本を読んだことがあります。やはり子どもだから  
走る子もいましたし、声を出す子もいました。この子どもコーナーは、2つの効果・意味がある場所だと思  
います。1つは、元来赤ん坊は泣き、子どもは大きな声で叫びます。あれは仕事のうちだそうです。肺活量  
が増えるそうです。だから仕事のうちだからやらせなければいかなのですけれども、結局、図書館は子ども  
とお母さんが一般の社会のルールをお互いに学んでいく場所として、非常にいい場所だと思います。どの程  
度なら寛容をもって子どものそういった話とか、多少小走りするのを大人が許容するか。子どもは子どもで、  
どのくらい以上出すと人様の迷惑になるかということを学ばいい場所であると思います。それから、先ほど  
に関連しますけれども、我々の図書館は「時間がちょっとあったからぶらりと図書館でも行ってみようか」  
というような雰囲気のある場所にあることだと思います。認知度が出てきましたが、PRをいろいろしたりする、  
でも、口コミがかなり効きますから、「図書館は用事がなくて行っても面白いよ」と、そういうところにし  
ていくというのはどうでしょうか。

委員・先ほどの私の意見の補足にもなりますけれども、課題解決型の図書館を否定するというのではなくて、例えば今から 20 年後、今ある職業の半分がなくなってしまうというようなことを言われていて、そういう時代性から見ていくと、やはり課題解決型で市民が力をつけていくということはとても大事なことだとは思いますが。しかし、もう一方、時代の課題から見ていくと、日本人の心の劣化というか、私や自分の父なんかの時代から見ると、まことに自分が劣化しているなという、明治の人間にはかなわないなということをととても感じます。今、少年から各世代、いろいろな問題が起きているわけですが、その「心の豊かさ」というか、「醸成」というか、そういうことももう一方には今の時代性の課題というところから出てくるような気がいたします。安曇野市の未来をつくっていくという、そういう可能性がこの図書館にはあるような気がいたします。そういう図書館の重要性ということで、私は特に「心が育つ」というところが大事なことだと思えます。

議長・ほかにございますか。

事務局・ご意見を参考にさせていただきます。

### (3) その他

特になし

## 4 その他

### (1) 三郷交流学習センターの建設事業の進捗状況について

事務局から説明

委員・みらいのようなドリンクを飲めたり、休憩をしたりできるカフェがとてもいいなと思えます。三郷図書館ではそういったお店というか、障がい者の人がつくったお菓子が売るとか、そういうことは可能なんですか。

事務局・エントランスホール内に厨房のような場所がございます。ここでカフェ的なこともできるような設備を今整備しようと進めており、ここで運営していただける方を募っています。みらいにもありますし、本庁舎の中にも「あったカフェ」という障がい者の皆さんが共同で運営をしている喫茶がございます。できればここもそういった皆さんにぜひ使っていただけるようにということで今調整をさせていただいております。また、「オープンスペース」では、食事がとれたり、コーヒーが飲めたりするスペースになります。ぜひ、ご活用いただければと思っております。

議長・ほかはいかがですか。

事務局・平成 28 年度末でご退任をされる三郷図書館長について報告

議長・ほかにいかがですか。

委員・平成 29 年度の事業計画をみると、すごく受動的な、市民にとっては本を読み聞かせてもらうというような受け身のイベントがすごく多い感じがします。市民参加型で興味をもっていただけるような企画を。例えば、何か本と言えば「読むもの」という概念をくつがえしたらどうかなと思っていて、本と言えば「書くもの」というような、何かそんな発想の転換ができないかなと考えています。作家さんも安曇野市にはたくさんいますので、斬新な本づくりのワークショップなり、つくる側のワークショップをやっていただくと楽しいのではないかと思っています。絵本づくりでまちおこしをしているところもありますが、色々な作家さん、安曇野にゆかりのある方とコラボし、安曇野ならではのもっとワクワクするような講座などをぜひ一緒に考えていただけたらと思います。

議長・ぜひ、どこかで実現できるよう考えていただければと思います。

委員・来年度、また基本計画をつくり直す作業がありますが、その大体のスケジュールが分かりましたら教えてください。ありがとうございます。

事務局・前回、お示ししたスケジュール案と変更はございませんが、総合計画、また文化振興計画、社会教育、生涯学習推進計画をつくっております、大体末期が 29 年度末になっております。それを目途に、これから方向性をまとめて、ご協議をいただき計画にしていくということになります。よろしく願いいたします。

委員・2 年間協議した指定管理者制度のその後は、どのような動きになっているか、簡単にご説明をお願いします。

事務局・昨年 11 月「両論併記」という報告書をいただきましたので、さらに検討を進めていくということになります。早急ということではありませんが、もう少し研究をしていくことになります。

委員・検討というのは行政の中で。

事務局・行政としてももう少し検討します。必要となれば違う場面でもご検討いただくことがあるかもしれませんが、当面は行政内ということになります。

委員・分かりました。

議長・よろしいですか。特にないようでしたら、第 6 回図書館協議会、ご審議をいただきありがとうございます。これをもちまして協議会を閉じさせていただきます。

以上